

小さくても経営持続可能な花壇苗プラン

～後継者へ繋げる生産環境整備をめざして～

北栄町  村岡 幸恵



1.はじめに

平成12年に7軒で組合を組織し、花壇苗生産に取り組みました。当初は2棟で始めたハウスも徐々に増棟し、現在6棟のハウスで3名のパート従業員と共に、年間約50万鉢程度（出荷量は43万鉢程度）を生産し、各市場に出荷しています。

生産数が増加したことで所得は増加しましたが、労働時間、作業による身体への負担も大きくなり、作業効率の低下や、ケガ等に繋がりがやすくなっているのも現状です。

こういった問題点を改善し、自身も含め、従業員が安心安全に、かつ長期的に働ける環境、そして、後継者として従事する予定である娘が安心して就農出来るハウス内基盤、労働体系、環境にしていきたいという思いから、このプランを作成しました。

現在、生産は実生系(※1)の苗が大半を占め、JF兵庫を中心に各市場に出荷しています。主にホームセンターからの注文で、大量出荷先を安定的に確保出来ています。近年栄養系花壇苗(※2)の需要が増加してきていることもあり、今後はこれらの生産量を増やしていきたいと思っています。

又6棟のハウスを効率よく回すため、適期の播種や育苗、又品種選びを心がけていますが、特に冬は寒さにより回転率も下がってしまいます。今後は、今以上に安定した生産状態を保つために、暖房等の導入により春先に出せる商材も加え、ハウス回転率を上げていきたいと思っています。

そして、作業過程の中で特に大きな負担となっているのが、地べた栽培(※3)です。身体への負担だけでなく、地に接しているため苗への病虫害の被害も多く、防除等も頻繁に必要とします。労力負担の軽減、品質の向上、経費削減のため、ベンチ栽培(※4)への移行が必要であり、最善策であると考えています。

以上の事をふまえ今後は、機械や設備等の導入により労力軽減・省力化を図り作業時の身体への負担を減らし、安心安全に働ける環境作りを目指します。そして、現従業員が長期的に働ける環境に整える事で、後継者や新しい従業員に今まで培ってきた栽培技術を伝えていってもらいたいと思います。

又栽培管理を徹底し、高製品率、高品質な苗を安定的に生産していく事で、所得の安定を目指していきたいと思っています。

こういった環境整備、労働体系により、生産量は減りますが、労働時間も安定し、所得も安定する、ライフワークバランスのとれた働き方が可能になると考えています。それが長期的に継続可能な経営スタイルであり、後継者に安心して繋いでいける基盤になると思っています。

又、女性が中心となりこういった経営を確立していく事で、若い世代の女性に、農業や花壇苗に少しでも興味関心を持ってもらえるきっかけになればと思います。

※1 実生系

種子から育てる植物。種子を購入して育てるため、苗が育つまでの時間と手間がかかり、品質等にもばらつきが出やすい。経費は抑えられるため大量生産が可能。

※2 栄養系

種子でなく購入苗から育てる。育苗期間を省くことができ、品質にもばらつきがなくロスもほぼ無い。苗代は高くなるが、高単価で販売出来る。

※3 地べた栽培

地面にそのまま苗を置いて栽培する。設備コストはかからないが、風通しが悪く加湿になりやすく、病害虫被害にあいやすい。また、身体への負担も大きい。



←地べた栽培での作業の様子。

※4 ベンチ栽培

ベンチを設置し、その上で栽培する。設備コストはかかるが、風通しが良く病害虫被害にあいにくい。また、目線の高さにあるため異常を発見しやすく、被害を最小限に抑える事が出来る。身体への負担も少なく、作業効率も上がる。

2.現状

(1) 生産規模

作目	面積	生産量
花壇苗	ハウス6棟 16a	50万鉢

(2) 労働力

1人+パート3名

3 課題

- ・作業、労働時間による身体への負担が大きい。
- ・これ以上の生産量の増加は見込めない
- ・安定した生産・所得

4.目標

- ・ 労力軽減により、安心安全に長期にかけて働ける環境づくり
- ・ 製品率向上、単価向上による所得の安定

5.対策

(1) 設備導入による、労力軽減

①ベンチ栽培の導入

現在地べた栽培を行っています。地べた栽培による身体への負担は大きく、自身も年々膝を痛めるようになり、一昨年、手術しなければならない状況になってしまいました。ベンチ栽培を導入する事で、しゃがんだり立ったりの動作が減り、身体への負担が大幅に解消されます。

②土入れ機の導入

現在は手作業で年間約 50 万ポット(約 14000 ケース)の土入れをしています。身体への負担はもちろん、手作業のため時間もかかります。土入れ機の導入により、身体的負担の軽減、時間の短縮化はもちろん、手作業による土の量のムラも無くすことが出来、より生育のそろった栽培が可能になります。

	1 時間あたりのケース量
土入れ機	200 ケース
手作業 (1 人)	40 ケース

③台車の導入

生産・出荷過程の中で、ケースの移動が何度もありますが、ハウス内ではねこ車を用いて移動させています。ケース数が多いため、往復の作業が多くなり、時間もかかります。台車導入により、労力・時間の軽減が可能になります。

1 ケースの重さ	5 k g ~8 k g (60×30 cm)
農繁期の 1 日の最大出荷ケース数	200 ケース
ねこ車での最大運搬ケース数	3 ケース
台車 "	20 ケース

④ 労力軽減による時間の有効活用

上記の設備を導入する事で、労力軽減が可能になり、さらに、作業時間の短縮にもつながります。短縮された時間を、作物の栽培管理の時間に充てる事で、品質の向上に繋げることが出来ます。

(2) 高品質、高単価商品の安定生産

現在年間約 50 万鉢を生産しています。自身の栽培技術も上がってきたことで、製品率は年々増加傾向にあり、近年では 85% 程度を維持しています。今後は高品質、高単価を目標にし、所得の安定に繋げていきたいと思えます。

① 種まきから育苗時点でのロスの軽減

・現在組合員は 4 戸で、播種機は共同利用しています。しかし、同じ品目を栽培している関係から、思うようなタイミングで播種出来ない事があります。播種機を導入する事で、適期播種による適期鉢上げ、需要期に対しての計画的出荷が可能になります。

・循環扇、暖房機を導入しハウス内環境を良好にする事で、夏の暑さや冬の寒さによる育苗のロスを軽減させます。これらの導入により育苗だけでなく、鉢上げ後も良好な環境で栽培出来る事により、病害被害を軽減する事ができます。更に、冬季に温度をかける事で春先の商品を安定的に出荷する事が可能になり、出荷の幅も広がります。

・また、内張を設置する事で、暖房機の効果をも有効に活用する事ができます。

・育苗ハウスに自動巻き上げを導入することで、特に冬場の急な日照り等による苗への被害に対応できます。

② 作物の適正管理・病害虫の早期予防、早期発見

ベンチ栽培に移行する事で、病害虫の被害にあいにくくなり、ロス率の軽減につながります。又、苗の様子がより見えやすくなり、追肥や防除等適時適正の対応が正確に出来るようになります。

(3) 継続可能な労働体系、生産体系

① 市場から求められる生産

現在実生系の生産が約 9 割以上を占めています。花壇苗市場での実生系の需要は全体の割以上を占めるため、大口取引が可能であり、又栽培経費が安い事がメリットとして挙げられます。しかし、単価も低いため生産量を増やさなければ利益が上がらないというデメリットもあります。一方栄養系は、経費は高くなりますが、1 ポット当たりの利益が大きく、実生系の約 8 倍となります (表 1)。

これらの事をふまえ、今後は現在市場との大口取引が継続している実生系をある程度維持しながら、高単価取引される栄養系品種の生産も少しずつ増やし、出荷期間の幅や販売先を広げていきたいと思っております

(表1)

1ポット当たりの所得計算 (単位:円)

		実生(9cm)	栄養系(10.5cm)
収入	販売単価		
	ロス率	10%	3%
	収入額(ロス率考慮)①		
経費	種子		
	培養土		
	トレイ		
	育苗		
	苗		
	ポット		
	土入れ		
	土代		
	定植		
	施肥		
	出荷作業		
	出荷トレイ		
	運賃		
	手数料		
	経費合計②		
	所得(①-②)		

栄養系は1ポット当たり約8倍の所得

②常時雇用の確保

現在三名のパート従業員がいますが、平均年齢が60歳となり、身体負担も大きくなってきているため、労働時間を減らし、新たに一名常時雇用を予定しています。

又、現在の従業員には少しでも長く働いてもらい、新しい従業員や後継者へ栽培技術を引き継いでいてもらいたいと思っています。そのためにも、労力軽減を目指した環境作りが必要と考えています。

そして常時雇用を採用する事で、自身の休みもしっかりと確保する事ができるような労働体系にしていきたいと思っています。

③展示会や商談会への積極的な参加

展示会や商談会へ積極的に参加していく事で、市場の花壇苗動向や最新のニーズを随時把握し、生産に反映させます。消費者ニーズ、売れる品種等、最新の花壇苗の動向を見極めながら、求められる商品作りをしていく事が重要と考えています。

④販売先の確保

良品質の高単価製品を高い製品率で持続的に生産し、売店との直接取引も視野に入れながら、より有益な販売を目指します。

(4) 後継者の育成確保

長女が花壇苗栽培の後継者として従事する予定です。後継者が安心して経営を引き継げるようにするためにも、作業を省力化し効率良く働ける環境に整備していきたいと思っています。

①省力化環境の整備

ベンチ、土入れ機、自動巻き上げなどを導入する事により、花壇苗栽培作業の省力化を図り、後継者へ安心して経営を引き継ぐことができる環境を整備します。

②後継者の育成

研修会や市場の展示会・商談会に積極的に参加させ、経営者としての資質の向上を図るようにしたいと思っています。

③後継者へ繋げる地域活動

娘が保育士をしていた繋がりを活用し、「花育」として、子供たちに花に親しんでもらえるような機会を作っていくことで、地域貢献もしたいと思います。

6. 目標の詳細

全体的な生産量は減少するが、製品率向上、単価向上により所得を安定させる事で、小さくても持続可能な経営スタイルを確立させる。

	現状		目標
・製品率（出荷数／鉢上げ数）を上げる	85%	→	90%
・栄養系の生産量を増やす （実生系の生産量を調整）	5,000 ポット (500,000 ポット)	→ →	10,000 ポット (450,000 ポット)
・実生系単価向上	■ 円／ポット	→	■ 円／ポット

7. 取り組みの年次計画

単位:円(税別)

	H29	H30	H31	連携機関
土入れ機導入			◎ 1,856,398	県・町・本人
台車(5台)	◎ 437,500			
ベンチ導入 (ハウス5棟)	◎ 2,821,490			県・町・本人
播種機導入			◎ 571,120	県・町・本人
暖房機 導入(1台)		◎ 1,011,231		県・町・本人
内張導入 (ハウス1棟)		◎ 163,676		県・町・本人
循環扇導入(10 台)		◎ 231,726		県・町・本人
自動巻き上げ導入 (5セット)		◎(1セット) 170,190	◎(4セット) 670,119	県・町・本人
電気工事		◎ 930,000		県・町・本人
研修会、市場展示 会・商談会参加	◎ 150,000	◎ 150,000	◎ 150,000	本人
花育の実施	○	○	○	本人・町
事業費合計	3,408,990	2,656,822	3,247,638	9,313,450

◎は頑張る農家プランで行うもの